



# 庄内ハウスアスパラガス栽培だより

R8年 第1号

令和8年2月19日  
酒田農業技術普及課

**生育の早いハウスでは萌芽が始まっています。管理をしっかり行い春芽の収量確保につなげましょう。**

## 1 肥料・堆肥の施用

- 土壌のpHを確認。目標pHは6.0～6.5。
- 石灰資材：60～100kg/10a 施用（土壌分析でpHを確認）。
- 緩効性肥料を窒素成分 15kg/10a または肥効調節型肥料を窒素成分量 25kg/10a 程度施用。
- 「堆肥マルチ」：完熟堆肥を畝上に厚さ2～3cm 程度施用（4.5～6 t/10aが目安）。

## 2 灌水

- 保温開始前 ⇒ 土壌水分が均一になるよう、十分に灌水する。  
【ポイント①】一度灌水してから、1時間ほど経過後再び灌水し、土壌に水を浸透させる。
- 保温開始後 ⇒ 畝表面の乾き具合を見ながら少量多回数の灌水。  
【ポイント②】灌水は晴天日の午前中（10時頃まで）に行う。

## 3 保温の開始時期と温度

- 保温開始の目安・・・成株のハウスでは、1月下旬～3月上旬。  
・・・収穫1年目のハウスでは、2月中旬以降。
- 収穫1年目の株は、休眠が浅く早く萌芽する。霜害に注意！  
※特に今年は萌芽が早く始まっているので、低温障害に注意！



【ポイント①】内張カーテンを展張し、萌芽が始まるまでは密閉管理とする。

【ポイント②】萌芽後は、畝上20～30cmの気温20～25℃を目標に内張カーテンやハウスサイドの開閉管理を行う。

※土壌水分が少ない状態で長時間35℃以上になると、高温障害（穂先焼け）が発生しやすくなるので注意！

- ◆ 農薬の適正な使用による安全・安心な農産物生産に努めましょう。
- ◆ 農作業中の事故を防ぐため、時間に余裕をもち「農作業安全」に努めましょう。